

1 候補地（坂口）での取組

- (1)住民が重視する地域課題
  - ①土砂災害等の災害の危険性の向上
  - ②林業の衰退による森林荒廃

(2)取組内容

地域課題に対応する専門家（地質の専門家、間伐・学習機製作体験ツアーを実施する木材加工業者）を坂口に招き、地域住民とともに地域住民が不安を抱えている箇所を見て回るとともに、専門家から助言や提案を受けた。



(3)参加者の意見等

- 地質の専門家からは、急傾斜地の崩壊について、地域住民が不安を抱いている箇所への具体的な見解（危険が差し迫っているわけではないことの説明があった箇所もあり）や、地盤のずれが見られる箇所に対しては、一定期間でどの程度のずれが生じたかを記録する方法等についてアドバイスがあり、土砂災害特別警戒区域に指定され、不安を抱いていた地域住民の安心につながった。
- 間伐・学習機製作体験ツアーを実施する木材加工業者からは、森林管理にもつながる「間伐体験ツアー」の実施が坂口で可能であることを確認した。このことは、森林荒廃や集落の日照や景観を損ねている雑木の管理に対する手立ての一つとなるため、地域住民からは、前向きな反応が見られた。（実施に向けては、業者、地域住民、山主と調整を重ねる必要がある。）

◎今後も引き続き地域との対話を続けながら、取組を継続していく。

2 係長級の職員による庁内連携会の開催

景観形成区域候補地での協議から明らかとなった中山間の集落における課題を共有するため、関係課の係長級の職員等による協議を実施した。

- (1)日時：令和2年7月16日 10:00~12:00
- (2)参加部局：環境政策課、地域活性推進課、地域コミュニティ推進課、農林水産課、鏡地域振興課、土佐山地域振興課

(3)協議内容

中山間地域が抱える課題（山林の荒廃、集落の消滅危機等）についての共有

(4)出席者の意見

- 中山間地域が抱える課題は庁内の各課が直面している課題であり、現状にあらがうことで庁内の意識が向上するのではないか。
- 市職員のなかにも、中山間地域の現状を知らない者も多い
- 庁内横断的に協議ができたことは意義がある。
- 小手先の関係人口では課題を解決するのは難しい。
- 中山間地域に対する高知市としての方針が必要
- 一部の地域の課題であり、全市的な課題とまでは言えないのではないか。
- こういった庁内横断的な場で協議を続けていくことが大切である。

◎引き続き協議を続けていく。



3 これまでの協議を踏まえた景観形成区域の取組に係る検討

- (1) 3候補地の住民との協議を通して見えてきたこと
  - 指定されることが誇らしいという声がある一方、指定後の保全のことを考えると指定が負担になるとの意見が大半である。
  - これまで、日々の暮らしの結果、美しい景観が保たれていたのであり、美しい景観を保つために活動を行う活力や気運が地域住民のなかには乏しい。
  - これまで地域住民を中心とした「暮らし」によって自然への「健全な働きかけ（山の管理や田畑の耕作等、人の手を加えることで適切な自然の状態が保たれるような働きかけ）」が行われ、美しい景観が形成されていたが、現在、「健全な働きかけ」が減ったことで、自然が地域住民に不安を与える存在になっている。（例）坂口：土砂災害等の災害の危険性、森林荒廃による日照時間の短縮

景観を保全するために求められること

地域住民のみで「健全な働きかけ」を継続することは難しいため、鏡川流域に住む地域外の人が地域の関係人口となり、ともに人と自然との関わりを増やしていく。（鏡川流域関係人口の創出）

(2) 取組の方向性

各候補地

	久礼野	領家	坂口
① 既存のコミュニティ	久重地域連携協議会里山部会	領家地区公民館	坂口地区
② 関係人口のイメージ	里山部会が実施する取組の参加者等 ※将来的にはさらなる関わりが必要	取組を地域ともに実践する人等	取組を地域ともに実践する人（専門家、企画者）等
③ ①・②が行う活動のイメージ	・里山をフィールドとしたイベントの実施 ・ホタルが生息する河川敷の整備	・耕作放棄地の活用 ・棚田の維持管理	・防災 ・人工林の管理 ・集落の景観や日照時間を阻害する雑木林の管理
④ 形成される景観	集落景観	棚田	集落景観

高知市

鏡川流域関係人口の創出を促す施策の実施

(3) 鏡川流域関係人口を創出するための施策（鏡川人づくり塾）の検討

**鏡川流域関係人口創出事業として「鏡川人づくり塾」を開催し、鏡川流域関係人口のプロデューサーや地域と関係人口をつなぐコーディネーター、活動のプレイヤーといった人材を育成する。**

※2017 鏡川清流保全基本計画の施策 19 に掲載された「鏡川人づくり塾」の育成する人材像を拡大  
 施策 19 水質や森、生きものといった自然資源の現状を分かりやすく解説できる人材や、鏡川での遊び方や周辺歴史のガイドが行えるような人材、釣りや投網といった伝統的な漁法や、地域の食文化などについて伝承できる人材の掘り起こしを行うため、「鏡川人づくり塾」（仮称）の開催に取り組む。

鏡川人づくり塾の概要（検討中）

<開催時期> 令和3年度から（受講期間は1年間） <募集人数> 12名程度  
 <対象者> 市民、学生、地域おこし協力隊 等（居住地は問わない）  
 <講座内容> 鏡川流域の現状を知るためのヒアリング、流域ツアー、講師を招いての講演、イベント作成実習 等  
 <育成する人材像> 取組を企画・具現化するプロデューサー、自然と住民とをつなぐコーディネーター 等  
 <想定する受講後の活動>  
 ・自然資本を有する景観形成区域等をフィールドに自然資本を活用した取組を実施する。  
 ・地域と流域内の住民を結び付け、「流域関係人口」を創出する。  
 ・景観形成区域候補地に入り、住民と共に地域の主体性を喚起しながら取組を企画する。 等  
 （注）来年度からの実施に向けた検討段階であり、今後、内容や実施時期等が変更となる可能性がある。